

高田援護室長の模型部屋(第9回)

皆さんこんにちは！自衛官の各種採用試験も本格的に始まり、秋だな・・と募集班長だった頃を思い出しています。謎に包まれた(笑)自衛官という職業を目指していただけるだけでも、とてもうれしく思います。受験された皆様の夢がかなうことをお祈りしています。

さて、アニメ「ガールズ・アンド・パンツァー」の人気はすごいですね。ビデオディスクが販売されているのに映画が追加上映されているんですよ。最近娘も私のプラモを見て「あ、この戦車ガルパンに出てた！」とか言うようになりました。アニメの力って大きいですよ。戦車マニアがもっと増えたらいいな。

さて、今回紹介するのは・・・

KV-1 増加装甲型

です。



ソ連の重戦車であるKV-1に、ドイツ軍の88mm高射砲の対戦車射撃に対抗するため、砲塔に35mmの装甲をボルト止めしたもので、ただでさえ重い戦車なのに更に機動性低下を招くことになった戦車です。

とはいえ、第2次世界大戦初期から中期にかけてソ連軍機甲部隊の中核をなした車体です。その重装甲はドイツ軍の砲弾を跳ね返し、「怪物」と言わしめたそうです。

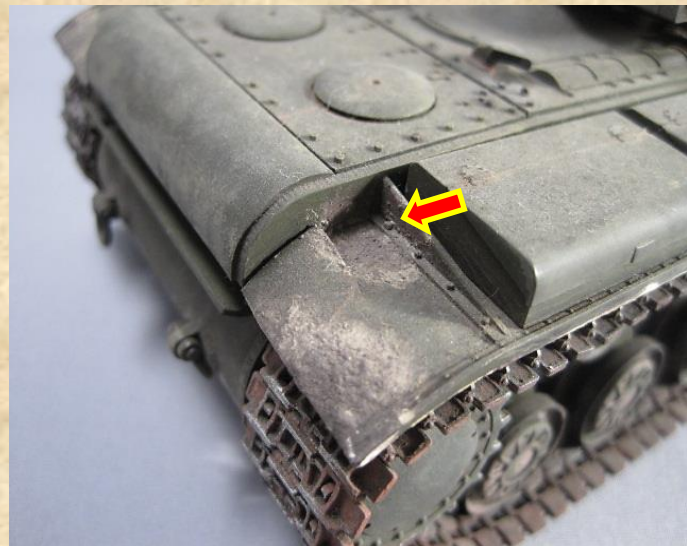
キットはタミヤさんのもので、平成2年頃？限定生産されたのですが、たまに再販されています。履帯はモデルカステンさんの接着式組み立て履帯です。

これを作ったのは私が23歳頃で、駐屯地の居室でシンナーの香りプンブンとさせながら作っていました。連隊長巡回点検時にこれを見て、「戦車隊員が戦車を作ることは一向に構わん！」と奨励されました。

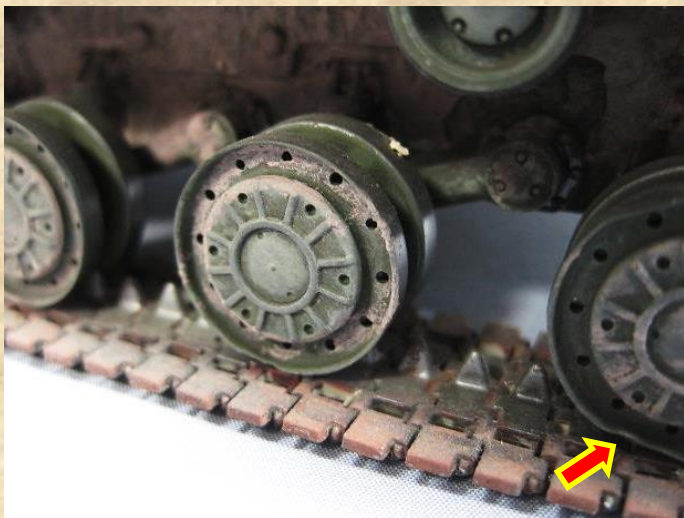
フェンダーや装甲板の曲がりや傷を見て、「齊藤3曹、タバコの火でいたずらされてるよ！」などと周りの人に言われてしまい、まだまだ技量未熟な頃の作品です。



キット自体はストレート組、車体はタミヤアクリルのダークグリーンを塗った後、パステルコンテの茶褐色を粉にして水で溶いて流し込んでスミ入れしました。その後、タミヤエナメルカラーのバフでドライブラシして、表面の凹凸を明瞭にさせました。



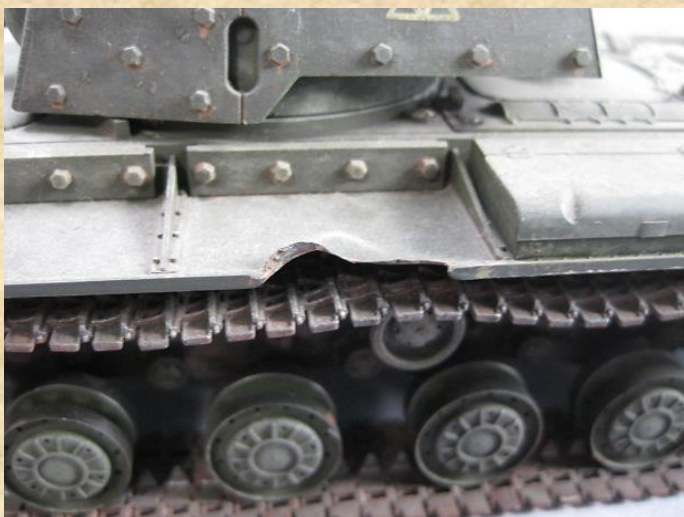
バトルダメージを受けたフェンダー部分です。金属板が裂けて切り口が鋭くなり(右)裂けた箇所から泥が飛び散っている(左)のを表現しました。説明しなきゃ分からないようじゃまだですわね・・・



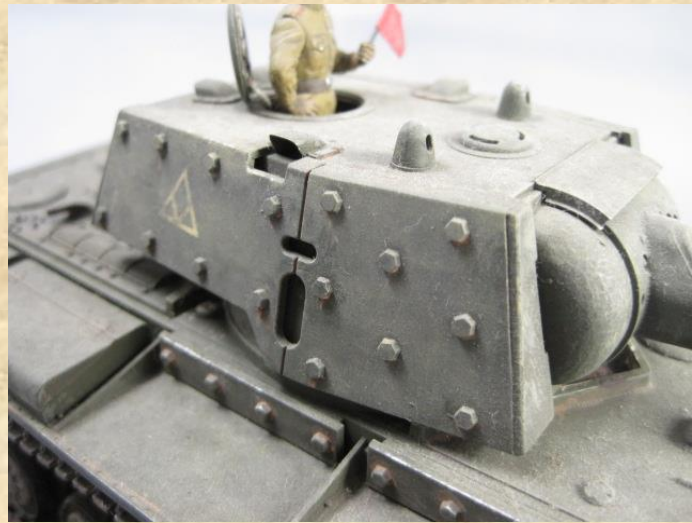
足回りの泥は、当時私の流行であったベビーパウダーとアクリル塗料と混ぜたものを付着させました。乾いてこびりついた泥の感じが出るのでピグメントを使用するまでこの手法を使ってました。転輪も衝撃で縁を曲げてみました。わかりますか？



履帯のセンターガイドと、鋼製転輪の縁部は擦れて金属の地金が出るので、鉛筆の粉を擦り付けました。



泥や樹木を撒きこんで破損したフェンダー。これがタバコによるイタズラに見えたみたいです。やはり「それらしく」見えないという事は、まだまだ未熟ということですね。勉強しなければ。履帯はアクリルタミヤのハルレッドを塗ってスミ入れし、ガンメタルと鉛筆の芯を擦り付けました。



戦車兵フィギュアはキットそのままです。怖い表情になってますね。ロシア人に見えない(笑)
砲塔や車体の諸所に錆が風雨により流れ落ちている表現をパステルコンテの茶色を使用して表現しました。乗員が乗下車時に歩いたであろう場所には誇りや泥がうっすらと乗った感じにしました。



この戦車の防御力はすばらしく、過去の写真を見ても砲弾が突き刺さった状態で止まっているのがあります。もっとも乗員はその衝撃力で失神しているのではないかと思います...

さて、今回はここまで。またお付き合いください。